



木馬いのちーわが家に木馬あり

宮坂 静生

踊り場に木馬の一基黙する秋
たてがみの毛糸温ぬくとし木馬の眸
額くがいのち木馬のあたたかし
木馬の名いともごんべい受験子よ
愛されし木馬束の間陽炎へり
木馬の夏流線形の身がひかり
虫の音に木馬泪目真暗がり
馬追や木馬嘶く術知らず
木馬見よ初冠雪の白馬岳
馬布の地の赤き天鷲絨木馬の冬
死メシを思トモリへ・生カルベを思ティエムへ木馬の冬
捨てられしか愛されしか木馬の春
いのちなき木馬に永遠の春の貌